

令和8年いすみ市議会第3回定例会一般質問通告一覧

通告 順序	議席番号及び議員名	質 問 事 項
1	7番 黒須 美智雄	1 防災・災害時の弱者対応について ①避難行動要支援者名簿と個別避難計画の現状について、名簿の対象者数と本人同意を得て登載されている人数、そのうち個別避難計画を作成済みの人数と割合、また今後、どの程度まで作成を進めるのか、市としての目標とスケジュールをお伺いします。 ②個別避難計画の作成と運用の体制について、市職員、自治会・自主防災組織、民生委員、ケアマネジャーなど、誰がどのような役割分担で計画づくりを進めているのか。また、実際の災害時に、その計画をどのように共有し、避難支援につなげる想定なのか、具体的な計画についてお伺いします。 ③福祉避難所と指定避難所における要配慮者への配慮について、協定を結んでいる福祉避難所の施設数と、おおよその受け入れ可能人数、その主な対象者像をお伺いします。 また、指定避難所における多目的トイレや簡易ベッド、パーティションなど、要配慮者の生活環境に配慮した備品整備の状況についてお伺いします。 2 高齢者福祉と地域医療・介護について ①地域包括支援センターの相談体制について、直近の年度の相談件数と主な相談内容の傾向、特に認知症高齢者や一人暮らし高齢者、多問題世帯など、支援が長期化・複雑化しているケースへの対応状況と現行の人員体制での課題と、今後の機能強化の方向性についてお伺いします。 ②高齢者見守りネットワークと地域の支え合いについて、協力事業者数と、これまでの活用状況、具体的な成果や課題についてお伺いします。 また、今後さらに高齢化と人口減少が進む中で、民生委員や一部の担い手に負担が偏らないよう、見守りや支え合いの仕組みをどのように広げていくのか、市の考えをお伺いします。 ③在宅介護を支える仕組みについて在宅で家族を介護している方に対して、介護者の集いの場、相談窓口、ショートステイ等を活用したレスパイトケア、認知症カフェなどの取組をどのように位置づけ、今後どのように強化していくのか。 第9期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の中

通告 順序	議席番号及び議員名	質 問 事 項
		での位置づけと、今後の方向性について伺います。 ④介護人材の確保・定着についてこれまで市が行ってきた、介護職員初任者研修等の受講費助成など人材確保策の実績をお伺いします。そのうえで、今後、若い世代だけでなくシニア人材や主婦層、多様な人材が柔軟な働き方で介護分野に関われるよう、どのような支援策や環境整備を検討しているのかお伺いします。
2	8 番 魚地 展弘	1 街路灯協会の管理する街路灯の今後のあり方について 市内には旧三町それぞれに街路灯協会があり、商店街の街路灯を維持管理してきたが、商店街の空洞化に伴う会員減少で、協会によっては会員や地区での維持管理負担が重くなりつつある。街路灯本数の見直しと合わせ、防犯灯として市が引き継ぐべきと考えるが、市の見解を伺います。 2 公共施設使用料の現状について 市内公共施設の使用料金が平成 28 年以降、10 年間据え置かれているが一方で、物価高騰で維持管理経費が上昇する中、使用料の見直しは避けて通れない課題であるとするが、以下について質問をします。 ①使用料が平成 28 年以降、10 年間据え置かれている経緯について伺います。 ②この間の物価動向・維持管理経費の推移と使用収支の現状について伺います。 ③使用料について、今後、市民の理解を得ながら適正な受益者負担となるよう見直しをする考えはないか伺います。 3 市農業の現状と有機米と慣行栽培米の位置づけについて ①全国的に農業従事者の減少が進んでおり、市においても同様の傾向が見られます。今後の担い手確保に向け、市の対応方針を伺います。 ②市は有機米「いすみっこ」を進める一方、従来からの慣行栽培によるいすみ米も本市農業を支えてきた。両者の位置付けをそれぞれ明確にする必要があるとするが市の見解を伺います。 4 夷隅郡市広域市町村圏事務組合における経費負担割合について

通告 順序	議席番号及び議員名	質 問 事 項
		現行の負担割合は、経常経費負担金・常備消防費負担金・病院群輪番制病院運営事業等負担金・介護認定審査会費負担金・障害支援区分認定審査会費負担金等の主要経費において、均等割３％・人口割９７％を基本としているが、構成４市町のうち本市の人口が単独で全体の過半を占める構造のもとでは、人口割の比重が極端に高い現行方式は、本市の構造的に過大な負担を強いられる結果となっている。負担割合の妥当性について以下の質問をします。 ①現行の均等割３％・人口割９７％という配分比率について、どのような経緯で定められたものか伺います。 ②均等割の比重を高める等、負担割合の見直しの必要性について、市としてどのように考えているのか伺います。
3	6 番 元吉 栄一	1 いすみ鉄道問題について いすみ鉄道が２７年秋頃の運転再開を目指して復旧工事を進めている中、本年５月２７日から「いすみ鉄道が担う地域公共交通のあり方検討会議」が始まり、座長は区間の存廃などを前提とせずに、全線についての議論を進める考えを示したそうですが、市長は大多喜駅―大原駅間の開通に全力を傾ける考えを示していますので、以下の質問をします。 ①いすみ鉄道の問題は、いすみ鉄道と県及び関係市町長で話し合うことが自然ではないかと思いますが、市長はどのようにお考えか伺います。 ②検討会議に参加した副市長は何を思い、どのような発言を行い、市長にどのような報告を行ったのか伺います。 ③「いすみ鉄道が担う地域公共交通のあり方検討会議」とは別に、市として、いすみ鉄道に東側の運転再開後の経営計画を示すよう求めていく考えはないか伺います。
4	1 番 せんだ 雄太	1 空き家のある敷地から越境した竹木について 空き家の敷地内から越境している竹木につきましては、基本的には民事上の相隣関係に係る問題であることから、市が対応できる範囲は限定的であると承知しております。一方で、人口減少や高齢化の進行に伴い、市内においても竹木の越境に関する課題は、今後さらに常態化していくことが予想されます。このような状況を踏まえ、以下について質問します。 ①これまで市には、越境している竹木に関する相

通告 順序	議席番号及び議員名	質 問 事 項
		談がどの程度寄せられており、どのような対応を行ってきたのか伺います。 ②今後、人口減少や高齢化の進行により、越境している竹木に関する相談や課題の増加が見込まれる中、市としてどのような認識を持ち、どのような対策を検討していくのか伺います。
5	13 番 井上 ひろみ	1 気候危機への対応と脱炭素化の実現に向けた取組について 市におきましては、昨年10月の「合併20周年記念式典において「気候危機宣言」及び「ゼロカーボンシテイ」をめざす方針を示しました。その宣言に基づき実効性のある行動を起こすことがますます必要になっています。そこで伺います。 ①市長は現在の酷暑、大雨などの地球の気候状況についてどのように受け止めているのか伺います。 ②2050年実質ゼロ達成にむけて、今後の取組をどのように考えているのか伺います。 2 首都圏CCS事業に伴ういすみ市への影響と市の認識について 首都圏CCS事業に伴ういすみ市への影響と市の認識について、本事業は、京葉臨海エリア等から発生するCO₂を大規模なパイプラインで外房沿岸まで輸送し、沖合の奥深くに封じ込める計画であり、外房地域全体の大規模なインフラ事業です。いすみ市は直接の試掘・貯留区域ではないものの、隣接する外房エリアの自治体として無関心ではられません。市民の安心・安全を守る立場から次の点について伺います。 ①本事業に対する市の現状認識と情報収集の状況について国や事業者による説明や動きが進む中、近隣自治体であるいすみ市にはどのような情報提供が行われているのか伺います。 ②市民に対して正確な情報提供や周知を行う考えはないか伺います。 3 農業を守る施策について 物価高騰に対する支援についてどのように考えているのか伺います。 4 公民館の有効活用について ①各公民館における現在の利用率や利用層の推移についてどのように認識されていますか。また利用層拡大や施設の活性化に向けた課題はどのように考えているのか伺います。 ②各館に簡易操作が可能なプロジェクターやポー

通告 順序	議席番号及び議員名	質 問 事 項
		ダブルスクリーンの常設・配備で気軽に映画上映や防災講座など、多目的に活用できるようにして頂きたいが市の見解を伺います。
6	10 番 山口 朋子	1 「いすみ市地球温暖化対策実行計画」及び「ゼロカーボンシティ宣言」の取組状況について 市は、平成30年2月に「いすみ市地球温暖化対策実行計画」を策定し、また、令和7年10月19日の市制施行20周年記念式典においては、気候変動の深刻化を踏まえた「気候危機宣言」を表明し、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」を宣言しています。これらの計画等に基づくこれまでの取組状況と進捗状況について以下の質問をします。 ①計画策定後の取組の進捗状況と成果について、2030年に40%削減という目標に向けて、現在までに、どのような取組をし、どのような成果が出ているのか伺います。 ②公共施設のエネルギー使用量の収集について、学校、各庁舎、図書館、防災拠点などの、エネルギー使用量の収集・分析の仕組み、改善に向けた取組状況について伺います。 ③再生可能エネルギーの導入可能性について、学校や各庁舎、防災拠点への太陽光発電設備や蓄電池の導入など、再生エネルギー導入の検討状況について伺います。 ④市民参加型の脱炭素施策について、市で実施している家庭用蓄電池補助及び住宅の断熱改修支援の実施状況について伺います。 2 「いすみ市図書館」について いすみ市図書館は、単に図書を貸し出すだけでなく、発達段階である子ども、また、高齢者、障がいのある方への配慮し、生涯学習、調べ学習、防災知識など多種多様な情報や資料をより良いサービスで提供することが重要であると考えます。そこで、開館から日が浅いところですが、開館後の利用状況を分析し、新たなニーズへの対応、新たな図書サービスやイベントを考え、市民にとって利用しやすい、親切的な図書館へと発展させることが大切であると考え、以下の質問をします。 ①開館後の利用者の属性や来館者数、貸出数やニーズを分析し、市民が行ってみたい図書館づくりや図書館の活用をどう進めていくのか伺います。

通告 順序	議席番号及び議員名	質 問 事 項
		②開館後、利用者からどのような要望などがあるのか伺います。 ③今後、子どもの読書推進、高齢者や障害のある方への大活字本、音声サービスの導入、自分の読んだ本が分かる読書通帳、市内を巡回する移動図書館について、今後の方針を伺います。 ④図書館D Xの関係から、電子書籍サービス導入の可能性や郷土資料や原田文庫・木原文庫など貴重な資料の保存をデジタル化する考えはあるか伺います。 ⑤学校図書館や学校との連携状況や今後の進め方はどうなっているか伺います。
7	4 番 浅野 照久	1 教育行政における現状について ①近年、児童生徒の基礎体力が低下していると言われるなか、市における体力向上の取組について伺います。 ア 「全国体力・運動能力・運動習慣調査」等の結果を踏まえ、市の子供たちの体力の現状をどのように分析されているか伺います。 イ 生活習慣の変化に対応した具体的な体力向上について、市として今後どのような方針で臨むのか伺います。 ②学校生活における安全指導（生活・交通・災害）について伺います。 ア 登下校時における通学路の危険箇所の最新の把握状況及び具体的な安全対策の進捗を伺います。 イ いじめの未然防止について、児童生徒への具体的な取組について伺います。 2 子育て支援における放課後児童クラブについて 市における放課後児童クラブの現状と課題について伺います。 ①一部放課後児童クラブで定員超過や一時的な保育の制限が発生していると聞いておりますが、現在の待機児童（保留児童）の状況と今後の需要予測及び支援員の高齢化に伴う今後の人材確保・育成に向けた具体的な取組について伺います。 ②夏休みなど長期休業中における預かり時間（開所時間の拡大）の必要性及び質の高い保育・支援員を維持するための放課後児童支援員等の処

通告 順序	議席番号及び議員名	質 問 事 項
		遇改善について、市の見解を伺います。
8	3 番 峰島 正広	1 高校生等の通学定期券購入費補助の新設について 現在、いすみ市内の保護者から「近隣自治体と比較して通学費の負担が重い」という切実な相談を多く受けております。少子高齢化が進む市において、子育て世代の定住促進と教育機会の均等を図ることは喫緊の課題です。そこで以下の点について伺います。 ①近隣自治体が相次いで通学費支援を強化し、鉄道事業者も自助努力による値下げを行うなか、市として、この通学費負担の違いをどう考えているか。また、市の通学者補助制度の現状を伺います。 ②市の全ての高校生等学生が居住地や利用路線を問わず恩恵を受けられるよう、市独自の新設補助制度を創設すべきと考えますが、市の見解を伺います。 2 鳥獣処理体制の再構築と現場負担の軽減策について 現在、多くの個体がいすみクリーンセンターで焼却されていますが、市原市への広域委託・搬送へと大きく舵を切る計画で感染個体や大型獣の全頭受入れが担保されるかは不透明です。そこで以下について伺います。 ①自前の焼却炉が縮小・廃止されたあとの捕獲個体の処理・活用方法の確保と市原市への委託後の野生鳥獣の受入条件等を伺います。 ②今後の人材確保として、現役ハンターの離脱を防ぎ若手を確保するためには、市は現状をどう分析し、改善に向けた具体策を検討しているのか伺います。 3 成年後見制度の活用促進と送付先住所変更の一括手続について 近年の高齢化の進展に伴い、認知症高齢者の増加は社会的課題となっており、これに伴って成年後見制度の需要も一層高まると見込まれる。そこで以下の点について伺います。 ①現在、市では成年後見人等の送付先変更は担当課ごとの個別申請となっているのか伺います。 ②対象となる業務は何か。また、庁内で情報共有する仕組みはあるのか伺います。

通告 順序	議席番号及び議員名	質 問 事 項
		③送付先一括登録制度を導入する考えはあるか伺います。 ④導入した場合、受付窓口の一本化に変更する考えがあるか伺います。
9	5 番 太田 雅彦	1 いすみ市福祉タクシー事業の対象者の拡充について 市の福祉タクシー事業は、対象となる多くの市民の皆様が利用して好評を得ています。しかし障害者の対象について、視覚障害者の３級以下の方が対象になっていません。生活の中で病気や事故等により途中から視覚障害を患ってしまった方は、自動車運転を諦める方が多くいるのが実状です。そこで質問ですが、福祉タクシー事業の対象者に視覚障害３級以下の方も含める考えはないか伺います。 2 「ふるさと住民登録制度」について 今年度から開始された、政府が関係人口創出に向けて創設した「ふるさと住民登録制度」ですが、制度の仕組みや取組について、市としてどのように考えているのか質問します。 ①「ふるさと住民登録制度」について、どのような認識を持っているのか伺います。 ②「ふるさと住民登録制度」を導入する考えはあるのか伺います。
10	11 番 田井 秀明	1 千葉県が検討している二次医療圏再編案と地域医療の将来について 千葉県が現在検討している二次医療圏の再編案について、地域医療の課題と絡めて、どのように認識し、この再編を市民にとって真にベネフィットのあるものにするため、県に対してどのような要望や働きかけを行っていく考えなのか、市としての見解を伺います。 2 令和８年５月に県が発表した房総半島沖を震源とする大地震の新しい被害想定を受けた地震・津波対策について ①今回の新たな被害想定に対する市の見解と、これに基づく「地域防災計画」の改定スケジュールおよび改定に向けた基本方針について伺います。 ②移動困難者の避難について、約２１分という極めて短い到達時間を踏まえると、従来の避難計画では対応できないと考えます。夜間・悪天候時や車避難による渋滞対策を含め、「個別避難計

通告 順序	議席番号及び議員名	質 問 事 項
		画」の実効性向上も含めた新たな避難計画をどのように構築するのか伺います。 ③沿岸部や低地における徒歩避難の限界を見据え、「津波避難タワー」の増設や、既存の堅牢な建物を指定する「津波避難ビル」の拡充について、市の考えを伺います。 ④避難時のボトルネック解消に向け、避難道路の拡幅や生活道路の避難路としての活用・整備など、道路網計画の改訂及びハード整備に対する市の見解を伺います。 3 事前復興計画の策定について 県の新たな地震・津波被害想定と、能登半島地震の教訓を踏まえた現在においても、市はなお事前復興計画を策定しないという判断を維持するのか。それとも、市民の生命・生活・地域経済を守るため、事前復興計画の策定に着手する決断をするのか、市としての明確な姿勢を伺います。 4 「ソーラー型・低コスト防犯カメラ」の官民連携による防犯カメラの設置について 費用対効果が極めて高い「ソーラー型・低コスト防犯カメラ」の市主導による増設及び市民・事業者への設置補助制度の創設について、市としてどのように考えているのか市の見解を伺います。